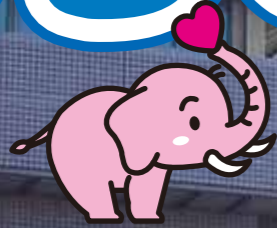


市立堺病院と市民の健康をつなぐ広報誌

ぞうさん 広場



2014年冬
Vol.2

ぞうさん広場 平成26年12月24日発行 第2号 ●発行所 市立堺病院 〒590-0064 大阪府堺市堺区南安井町1丁目1番1号 TEL 072-221-1700

市立堺病院でたくさんの赤ちゃんが生まれています!



紗来(さら)ちゃん

平成26年11月5日生まれ

パパとママより
「健康に元気で育ってね」

蓮歩(れんと)くん

平成26年10月28日生まれ

パパとママより
「大きく育ってね」

葵(あおい)くん

平成26年10月10日生まれ

パパとママより
「明るく元気に育ってね」

永(えい)くん

平成26年10月2日生まれ

パパとママより
「これから元気にすくすく育ってね」

体の温まる「冬のほっこりレシピ」

野菜あんかけオムレツ

(1人分 139kcal 塩分:1.1g)



野菜あんかけオムレツ

<作り方>

- ①にんじんは千切り、白菜は芯の部分は1cm幅に切り、葉の部分は大きめに切る。青ねぎは斜め切り、しめじは石突きを取ってほぐす。しょうがはすり下ろす。
- ②卵は溶きほぐして塩こしょうする。フライパンに油を熱し、卵を入れ、かき混ぜながら形を整えて焼く。片面が焼けたら返して両面を焼いて、皿に取り出しておく。
- ③同じフライパンに油を入れて、しょうが・にんじん・しめじ・白菜を炒め、水、めんつゆを入れて煮る。
- ④野菜がやわらかくなったら、青ねぎを入れて、水溶き片栗粉でとろみをつける。
- ⑤②の上に④をかける。

★卵の代わりに、ソテーした魚や肉の上にあんをかけてもおいしいですよ!

<しょうがのはたらき>

しょうがの辛味成分は、消臭効果があるため、肉や魚の臭み消しによく利用されますが、血行を良くして体を温める効果があります。免疫力も高まり、風邪を予防する効果も期待できます。発汗作用もあるため昔から生薬としても利用されてきました。また、胃液の分泌をよくして、消化を促す働きもあります。

<材料 4人分>

卵	4個	しょうが	5g
塩こしょう	少々	油	大さじ1/2
油	大さじ1/2	水	100cc
にんじん	40g	麵つゆ(3倍濃縮)	大さじ2
白菜(1~2枚)	160g	片栗粉1	大さじ1
しめじ(1/2株)	60g	(倍量くらいの水で溶いておく)	
青ねぎ(1本)	30g		

冬のほっこりレシピ

市立堺病院で生まれた赤ちゃん大集合!

当院の登録医紹介

新病院工事状況

インタビュー特集 市立堺病院の救急医療の現状と今後



〒590-0064 大阪府堺市堺区南安井町1丁目1番1号 TEL 072-221-1700
<http://www.sakai-city-hospital.jp>

既に進む 新しい体制づくり



市立堺病院院長 金万 和志

当院は24時間対応の救急医療に重点を置き、年間の救急受入件数は約7千件になります。救急体制としては救急内科と救急外科が両立した救急センターを設立し、各診療科の壁を超えたチーム医療を実践しています。

平成27年7月に移転する新病院では高度な3次救急にも対応できる救命救急センターを開設します。それを視野に入れた体制づくりを行っております。

今後とも当院の取組みにご協力いただきますようよろしくお願いいたします。



新病院 工事状況

11月10日、市立堺病院の新病院建設現場(堺市西区家原寺町1丁)にて上棟式を執り行いました。

式典には地方独立行政法人堺市立病院機構の北村理事長をはじめ、関係者21名が参列されました。

式では、まず「棟札奉祀(むなふだほうし)の儀」として施主、設計工事監理者、施工者の各代表により「棟札の授与」が行われた後、棟札が梁(はり)に固定されました。続いて金銀鉾(びょう)が引き渡され、工具袋に収められた後、棟札と工具袋を取り付けた梁の揚重(ようじゅう)、取り付けを行い式は無事終了しました。



棟札奉祀の儀で棟札を受け取る当機構の北村理事長

市立堺病院における救急医療の現状と今後の見通し。 堺市初となる救命救急センター開設に向けて――。

市立堺病院における救急医療の現状と、来年の新病院にて開設される救命救急センターのビジョンについて、現救急センターの主要スタッフである中田先生、森田先生、小原先生のお三方にお話を伺いました。

堺市における救急医療の現状を教えてください。

中田 堺市は人口84万人を超える都市ですが、一次医療圏に一つの整備が進められている救命救急センターがありません。そのため、これまで堺市内で発生していた外傷を主とした重傷な救急患者が、年間350人以上も堺市外の救命救急センターに

搬送されてきました。

この状況は、地元でスピーディな救急医療ができないというだけでなく、地元から離れた病院に入院しなければいけないため、患者さん本人や家族にとって非常に不便な状況でした。その一方、緊急外科手術数は年々増加傾向を示しており、当院においても平成24年度で年間三六五件、毎日一件は高度な緊急手術が行な

われています。

このような状況下にあつて、本格的な救急医療施設である救命救急センターが堺市内に誕生することが待ち望まれていました。

堺市初の救命救急センターとはどのようなものですか？

森田 当院は来年の平成27年7月に新病院に移転予定ですが、その病院内に堺市初の救命救急

センターが開設される予定です。

これにより救急外来の受入体制が大きくパワーアップします。従来には無かった救急患者専用の重症病棟を開設し、最新の医療施設・設備も導入されます。また、設備などのハード面だけでなく、看護師をふくむスタッフの増加をはかり、マンパワーにおいてもスケールアップが見込まれています。



救急センター救急外科担当部長 中田 康城



救急センター救急外科担当副部長 森田 正則



救急センター救急内科担当部長 小原 章敏



救急外来診察室

これらは現状の市立堺病院においても言えることですが、来年開院となる新病院の救命救急センターでは、さらに効率化された救急医療を提供できる予定です。

新病院での救急外来の受け入れ状況はどのように変化していくのでしょうか？

森田 新病院では外科的な三次救急の重症患者さんを積極的に受け入れる予定です。新病院全体でスタッフを増員し、患者さん



救急センターのスタッフ

従来の市立堺病院においては救急患者専用の病棟が無く、病院内のベッドにも空きが少なかつたため、受入数に限界がありました。中でも外科的な三次救急^注の患者さんの受け入れや、入院治療においては大きなジレンマを抱えていましたが、これらの問題も解決されます。救急で運ばれた患者さんに対し、治療から入院はもちろん、転院や退院後のかかりつけ医の紹介まで一貫した医療サポートを提供しやすくなります。

注

【初期救急】
家庭で処理できない症状の帰宅可能患者

【二次救急】
入院や手術が必要な患者

【三次救急】
生命に危険が及んでおり、高度な緊急治療が必要な患者

一人当たりに対する看護体制がより濃厚になり、密な治療が可能になります。

地域の救急隊員にとっても、例えば交通事故で頭蓋骨陥没意識が無いなど重症外傷であるにもかかわらず、今までは他の地域に搬送していた患者さんも、今後は新病院の救急外来で受け入れることができるようになります。しかも、専用の手術室や集中治療室で守備範囲広く対応できるため、時間のロスが少なくなるだけでなく、堺市内でさらに重要な役割を担う医療施設となるでしょう。

ただ、新病院の救急外来は、重症患者さんばかりを扱う施設ではありません。あくまで今までの救急センターにプラスして、外科的な三次救急の重症患者さんを治療できるキャパシティが広がるということです。開業医さんから紹介されたような二次救急^注の患者さんも安心してご来院いただけます。

新しい救命救急センターの目標はなんですか？

小原 堺市の医療難民をなくすことが最大の目標です。医療難

民とは、診療の守備範囲が狭いために幅広い視野で診察が出来ず、いろいろな科にたらい回された結果、適切な医療サービスを受けられない患者さんのことです。

当院では8名の救命救急センターの医師を中心に、総合診療と専門性をうまく組み合わせたい。スムーズな医療を展開していきます。今後は病棟の施設や設備も格段に新しくなるとともに、より救急医療に適した動線に変わるため、医師や看護師のより効率的な業務が期待できます。

また、病院の場所が堺区から西区に移動するため、今後堺市だけでなく高石市や和泉市からの救急外来を受診する患者さんも増え、より救急医療の必要性が増すと考えています。今まで以上に幅広い目線でどんな重症な救急患者にも対応できるレベルな治療が行なえる医療環境を目指していきます。

現在、当院の救急外来には8名の医師が在籍しておりますが、各自が救急外科、救急内科の中で専門分野を持ちながらも、総合的な目線で診察できる能力と体制を備えています。例えば、交通事故による頭蓋骨骨折や脳の異常に加え、内臓疾患が並行している場合、専門分野の診療科

救急外来における総合診療の大切さとはなんですか？

小原 通常、救急病院にはそれぞれの専門分野の医師が待機し救急治療にあたりますが、中にはどこが悪いのかわからないといった患者さんも存在します。そうしたケースの場合、自分の専門分野の知識だけでなく、総合的な見地から患者さんを診療し、問題を把握した上でそれぞれの専門医と連携を図る必要があります。つまり、専門的に特化したスペシャリストな医師だけでなく、広い守備範囲で患者さんを診ることができるゼネラルな医師との協力体制が必要と考えています。これは現在、国が進めている「総合診療外来」という考え方ですが、救急医療においても非常に重要なテーマです。

ただでは速やかな治療が出来ない恐れがあります。その場合はまず、救急外来の医師たちが話し合い、どこに問題があり何が必要かを判断し、緊急手術が必要な場合やその後の治療において外科や内科、脳外科などの専門医とスムーズな連携がとれるようにしています。

新病院における救命救急センターの強みはなんですか？

中田 総合病院ならではの「総合力」が光る治療が一番の強みです。新病院における救命救急センターは、独立型の救命救急センターとは違い、総合病院の中に設立されています。そのため、救急で訪れた患者さんに対し救急の医師だけでなく、外科や内科、循環器科やその他多くの専門医同士と連携しながら適切な治療を施すことが可能です。さらに、救急外来において手術や同じ症状の治療が重なった場合なども、救急外来以外の医師と業務を分担することが可能であるため、一人の専門医ばかり負担が多くならず、患者さんにとっては待ち時間の短縮につながります。

ただでは速やかな治療が出来ない恐れがあります。その場合はまず、救急外来の医師たちが話し合い、どこに問題があり何が必要かを判断し、緊急手術が必要な場合やその後の治療において外科や内科、脳外科などの専門医とスムーズな連携がとれるようにしています。

新病院における救命救急センターの強みはなんですか？

中田 総合病院ならではの「総合力」が光る治療が一番の強みです。新病院における救命救急センターは、独立型の救命救急センターとは違い、総合病院の中に設立されています。そのため、救急で訪れた患者さんに対し救急の医師だけでなく、外科や内科、循環器科やその他多くの専門医同士と連携しながら適切な治療を施すことが可能です。さらに、救急外来において手術や同じ症状の治療が重なった場合なども、救急外来以外の医師と業務を分担することが可能であるため、一人の専門医ばかり負担が多くならず、患者さんにとっては待ち時間の短縮につながります。

ただでは速やかな治療が出来ない恐れがあります。その場合はまず、救急外来の医師たちが話し合い、どこに問題があり何が必要かを判断し、緊急手術が必要な場合やその後の治療において外科や内科、脳外科などの専門医とスムーズな連携がとれるようにしています。

新病院における救命救急センターの強みはなんですか？

中田 総合病院ならではの「総合力」が光る治療が一番の強みです。新病院における救命救急センターは、独立型の救命救急センターとは違い、総合病院の中に設立されています。そのため、救急で訪れた患者さんに対し救急の医師だけでなく、外科や内科、循環器科やその他多くの専門医同士と連携しながら適切な治療を施すことが可能です。さらに、救急外来において手術や同じ症状の治療が重なった場合なども、救急外来以外の医師と業務を分担することが可能であるため、一人の専門医ばかり負担が多くならず、患者さんにとっては待ち時間の短縮につながります。

ただでは速やかな治療が出来ない恐れがあります。その場合はまず、救急外来の医師たちが話し合い、どこに問題があり何が必要かを判断し、緊急手術が必要な場合やその後の治療において外科や内科、脳外科などの専門医とスムーズな連携がとれるようにしています。

新病院における救命救急センターの強みはなんですか？

中田 総合病院ならではの「総合力」が光る治療が一番の強みです。新病院における救命救急センターは、独立型の救命救急センターとは違い、総合病院の中に設立されています。そのため、救急で訪れた患者さんに対し救急の医師だけでなく、外科や内科、循環器科やその他多くの専門医同士と連携しながら適切な治療を施すことが可能です。さらに、救急外来において手術や同じ症状の治療が重なった場合なども、救急外来以外の医師と業務を分担することが可能であるため、一人の専門医ばかり負担が多くならず、患者さんにとっては待ち時間の短縮につながります。



待合室には白井先生のお父さんが作られた版画が飾られています。



堺市堺区大仙西町6-157-1
★南海高野線「堺東駅」よりバス5分
「工業学校前」のバス停車

☎072-245-2058
http://www.usui-clinic.net/

診療科目 / 内科、消化器科

診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	△
16:30~19:00	○	○	○	○	○	○	△

■**私の診察モットー**
出来るだけ早期発見を目指しています。当院の患者さんは、近隣に住む60歳以上で、慢性疾患の方がほとんどなので、可能な限り長期に亘って健康管理のお手伝いをさせて頂こうと考えて

■**地域の皆様へのメッセージ**
大事に至らないうちに診察を受けるようにしてください。少しでも体調に異変を感じたら、早めに当院や病院への受診をお願い致します。
日々の健康管理も心がけていきたいですね。私事で、すが、7年ほど前から毎日6~7kmのジョギングを日課にしています。10kg近く体重が落ち、生活習慣病の予防にも繋がっています。みなさんも自分のペースで適度な運動をするともに、病気の早期発見、早期治療を心がけ健康を維持して下さい。

■**当院の特長**
市立堺病院で20年余り内科医として働いた経験を生かして、守備範囲の広い診療を行なっています。内科、消化器科を中心に、高血圧症、糖尿病、高脂血症、胃・十二指腸潰瘍、胃癌、大腸腫瘍、潰瘍性大腸炎、脂肪肝、C型およびB型慢性肝炎、肝硬変、肝臓癌、慢性膵炎、胆石症等の方が来院されています。

■**当院の特長**
います。また、入院の必要や救急重病の際など、地域の病院と迅速な連携を心がけています。特に堺病院さんとは、長年築いた信頼から紹介もしやすく、退院後の経過観察や継続したケアも病院側と情報共有しながら進めていけるので頼もしい限りです。

堺区大仙西町 白井内科・消化器科クリニック 白井辰彦 先生



最近更新した院内の電子内視鏡システム

「かかりつけ医」を持ちましょう

かかりつけ医を持っていると
便利で安心ですよ



かかりつけ医とは、あなたの健康状態をよく知っていて、気軽に何でも相談にのってくれるホームドクターのことです。
当院はこうしたかかりつけ医の先生と協力し、登録医制度を推進しています。普段はかかりつけ医で、待ち時間も少なくゆとりを持った診察を受けていただき、専門的な検査や治療が必要な場合は当院に紹介していただくというものです。その時はかかりつけ医の紹介状をお持ちください。当院とかかりつけ医の役割分担についてご理解いただくとともに、日頃から健康のことを相談できるかかりつけ医を持つようにしましょう。

- 紹介状を持参するメリット**
 - 今までの治療経過を活かした診察ができます。
 - 診察の予約ができます。
 - 検査だけ当院で受けて帰っていただき結果はかかりつけ医から聞くことができます。
 - 保険外併用療養費(2700円)がかかりません。
- かかりつけ医を持つメリット**
 - 気軽に何でも相談できます。
 - 待ち時間も少なくゆとりを持った診察を受けることができます。
 - 必要な時は、専門医療機関を紹介してもらえます。

当院と連携している登録医の先生をご紹介します。

堺区三国ヶ丘御幸通 谷和医院

谷和光彦 先生



■**当院の特長**
当院の特徴は、内科・小児科に限らず、あらゆる訴えに対して総合的な見地から臨機応変に対応処が出来ること、往診・訪問診療などの在宅医療、ターミナル医療を行っていることです。また総合病院との連携によって、地域のかかりつけ医としての役割を全うしています。

■**私の診察モットー**
「患者さんに納得してもらえ、満足してもらえる治療を行う」
「患者さん目線に立つて何事も考える」「新しい医療に対応できる医師になる」「できる限り、当日に診断治療を行う」「24時間患者さんに対応する」「毎年新



超音波診断装置とトレッドミル



堺市堺区三国ヶ丘御幸通2-1
★南海高野線「堺東駅」から徒歩5分

☎072-233-5518

診療科目 / 内科、小児科

診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日
9:30~12:30	○	○	○	○	○	○	△
17:00~19:30	○	○	○	○	○	○	△

■**地域の皆様へのメッセージ**
早期発見、早期治療のために健康診断を毎年必ず受けてください。少しでも異常があればできるだけ早く治療を行います。そんな中でも、気軽に相談できる「かかりつけ医」を作っておきましょう。当院では救急時に必要な検査機器も備えています。結果によっては速やかに専門医に紹介しています。

また、24時間いつでも電話、ライン、SMSなどで病気の相談を受け、往診、在宅医療、ターミナル医療なども行っています。常患者さん本位の医療を心がけることで、地域の皆さんから信頼されるのが基本です。

ご寄附のお礼

市立堺病院へ貴重なご寄附をいただきまして心よりお礼申し上げます。
ご寄附をいただきました方のご芳名を
ご本人の承諾を頂いて掲載させていただきます。

- (ご芳名) (1月末時点)
- 森谷 武敏様
 - 多嘉良 啓子様
 - 荒西 秀貴様
 - 林 富士子様
 - 山本 真喜子様
 - 千葉 鐘子様
 - 山下 善伸様
 - 北藤 五郎様
 - 金万 和志様
 - 他4名様

皆様よりいただいたご寄附は下記の目的で使用させていただきます。
・市民・地域住民の皆さんへ高度・専門医療を提供するための医療研究
・中核病院としての高度医療機器の整備
・新病院における施設の整備

